

オンライン研修 in 宮古島市  
第3回  
チームティーチングの進め方

琉球大学名誉教授

大城 賢

## チームティーチングの進め方

- ①学級担任の強み悩み
- ②専科教員の強み悩み
- ③効果的なチームティーチングを具体例から考える。  
担任 宮古島市立伊良部小学校 平良 優 先生  
専科 宮古島市立伊良部小学校 狩俣 聖子 先生
- ④まとめ

## 学級担任の強み

学級の実態に合わせた指導計画の作成と授業展開を考えることができる。

他教科等との連携を考えることができる。

児童への安心感を与えることができる。

授業規律を整え、児童を集中させることができる。

## 学級担任の不安

英語力に自信がない。

英語の授業をどのように行えばよいか分からない。

## 専科の先生の強み

外国語指導の点から、指導計画と授業展開を考えることができる。  
より質の高いインプットを与えることができる。（英語力が高い）

## 専科の先生の悩み

児童理解が希薄となりがち

指導児童の多さ、数百人を指導し評価する。

学校間の移動（担当学校数は2～3校）

個人差に合わせた指導が困難

個性に応じた動機付けが困難

柔軟な時間裁量が困難

## 小学校における指導形態

### ① 専科単独型

専科の先生が一人で指導する。



専科の先生

## 小学校における指導形態（教科担任制）

### ②授業交換型

学年内や学校内で授業を交換して単独で指導する。

私は6年1組～3組  
の国語を



学級担任

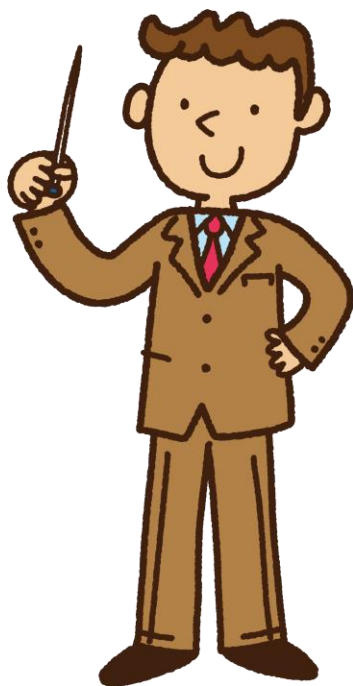


学級担任

私は6年1組～3組  
の外国語を

## 小学校における指導形態

### ③T/T型



学級担任



専科の先生

学級担任と専科の先生と一緒に授業を行う。  
担任の先生の強みと専科の先生の強みを合わせることが出来る。

## 外国語活動（3年生）

### 授業の目標

アルファベットに慣れ親しみ、自分のイニシャルを伝え合おう

授業のポイントは以下の3つです。

- ①アルファベットの発音に慣れ親しませるためにリップリーディングを取り入れている。
- ②児童が楽しく英語のアルファベットに親しめるように歌やゲームなどを取り入れている。
- ③アルファベットに慣れ親しませるために、イニシャルを伝え合う活動と発表する活動を行っている。





リップ  
リーディ  
ング（読  
唇術）  
唇の動き  
から発話  
の内容を  
読み取っ  
ていきま  
す。

撮影：大城

外国語活動の目標の「知識及び技能」に関する記述は「(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。」となっています。アルファベットには日本語にはない音が含まれています。

授業動画では専科の先生が専門的な知識を生かしてリップリーディングの手法を取り入れています。英語の発音は日本語とは比べものにならないほど口元の筋肉を動かします。つまり口元を見ることは音の違いを判断することに役立ちます。

中森によると、言語習得の過程では、乳児は音に対して注意を向け、母親の顔をじっと見つめ、同じような口の動きをしようとしていることが観察されていると報告されています。また、視線の先で動く口と、聞こえた音とを結びつけることによって、自分も発音できるようになるそうです。外国語学習においても、特に、10歳以下の小学生は無意識に教師の口の形に注目するため、指導者は正しい口の構えではっきりと発話することを心がけることが必要と指摘しています。

児童が専門的な知識を持つ必要はもちろん必要ありませんが、授業動画で扱われた微妙な音の違いのある文字については、専科の先生の行うリップリーディングは効果的です。

中森誉之『外国語音声のメカニズム』開拓社、2016

授業の目標：色の単語に慣れ親しませ、自分の好きな色の虹を描くことを通して、相手に好きな色を伝え合ったり、発表したりする。

この授業のポイントとして以下の3点を挙げることができます。

- ① 児童の興味関心を踏まえたマジックや変顔コンテストを通じて、色の単語が日本語の解説や説明などではなく、先生の英語を聞くことを通して児童が慣れ親しむような形になっている。（担任の強み）
- ② ただ聞かせるだけでなく、適宜、日本語と英語との音声の違いに気付かせる配慮がある。（専科の強み）
- ③ 「やり取り」から「発表」という形で児童が「話す」場面を自然な流れの中で設定している。（担任＋専科の強み）



変顔コンテスト  
児童の着ているTシャツは、はじめは白黒で写されています。その色を見童に予想させます。

撮影：大城

(担任の強み) 色の導入が、「red は赤」, 「blue は青」というような説明ではなく、変顔コンテストを通して、児童が聞いたり、話したり、興味を持って考えたり、時には「明るい緑色はなんていうのだろう」と疑問に思ったりしながら導入されています。理解のしやすさや、興味関心の喚起、さらに単調になりがちな色の学習のことを考えると、日本語の説明を通して指導したほうがよいのか、変顔コンテストのように児童とのやり取りを通して、楽しみながら指導したほうがよいのか、どちらのほうが効果的かは言うまでもないことです。

(専科の強み) 「ただ聞かせるだけではなく、適宜、日本語と英語との音声に気付かせる配慮がある点」です。たとえば、色を当てるクイズの場合はカタカナ語として知っている単語が児童の中から沢山でてきました。担任の先生は、児童の意欲をそぐことがないように配慮しながら、専科の先生に、パープル、グリーンなどのカタカナ英語を、purple, greenなどと英語の発音に言い直してもらっていました。カタカナ語の発音を、それとなく英語の発音に直すことによって、児童は日本語と英語の音声の違いに気づくことができます。担任の先生と専科の先生とのTTの良さが良く表れた場面でした。

## まとめ

### チームティーチングの進め方

専科の先生の強み/悩みを理解する。

担任の先生の強み/悩みを理解する。

その上で専科/担任の先生の強みを生かす。



### 指導形態

児童にとって楽しく，効果的な外国語の授業を目指す。

